

## The 40th Annual Larval Fish Conference に参加して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2024-07-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 千村, 昌之 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009771">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009771</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



# The 40th Annual Larval Fish Conference に参加して

資源管理部 底魚資源グループ 主任研究員 千村 昌之



## 仔稚魚(魚の子ども)に関する研究発表が行われる国際会議に参加しました

今年6月にアメリカ合衆国メリーランド州ソロモンズにあるメリーランド大学チェサピーク生物学研究所で開催された”The 40th Annual Larval Fish Conference”(第40回仔稚魚年次会合)に参加しました。ソロモンズは、首都ワシントンDCから南東に約80km離れた、チェサピーク湾に注ぐパタクセント川の河口にある水辺の町です(表紙写真)。緯度は仙台と同じくらいで、日差しが強くて気温も高く、釧路から参加した私にはとても暑く感じました。この会議は、アメリカ水産学会の会員が持ち回りで主催者を務め、年1回、おもに欧米で開催されています。各国から100人以上の研究者が参加し、70題以上の口頭発表と35題のポスター発表がありました(写真1)。発表のテーマは、輸送、成長、被食や母性効果、海洋酸性化の影響など仔稚魚の生き残りに関する幅広い分野にわたっていました。私は、日本海のスケトウダラの仔稚魚の成長と生き残りの関係について口頭発表しました(写真2)。昼食や夕食は、各国から参加した研究者と会食しながら最近の研究動向など情報交換をしました。今回の会議は、会場のチェサピーク生物学研究所に長年勤務し、仔稚魚の死亡要因に関する研究で有名な Edward D. Houde 博士の退職記念を兼ねていたので、博士にゆかりのある著名な研究者が多く参加しており、論文を読んで疑問に思っていたことを直接聞くなど、とても良い経験ができました。地元の名物料理を味わうこともできました(写真3)。



写真2 筆者の講演風景



写真3 ソフトシェルクラブ(脱皮したてのワタリガニの唐揚げでアメリカ東海岸の名物料理の一つ)のサンドイッチ



写真1 会議参加者の集合写真(最前列中央に立っているのがHoude博士)